



消防車型キッチンカーから 広がる、市民・企業・地域 との防災共創

「防災に関心がない人」にどう届けるか

千葉県千葉市 一般社団法人日本消防防災
UNITE 機構



代表理事
鈴木亮



現・消防士
安藤裕樹

1 はじめに

私たち一般社団法人日本消防防災 UNITE 機構は、「防災に関心のない人にも、どうすれば防災を届けられるか」という思いから、消防車型キッチンカーを活用した防災普及活動を行っています。

災害への備えについては、行政や消防をはじめ、さまざまな機関から多くの情報が発信されています。一方で、防災イベントや講演会に参加する方は、もともと防災への関心が高い方に偏りやすいという課題があると思っています。

本当に情報を届けたい方ほど、防災について調べたり、消防士や消防団、防災関係者と直接話したりする機会が少ないと考えました。そこで私たちは、「防災の場所にきてもらう」のではなく、「人が集まる場所へ、防災から出ていく」という活動を始めました。

2 消防車型キッチンカーを 「移動式防災拠点」に

その中心となっているのが、消防車型キッチンカーです。

消防車は子どもたちの目を引き、飲食をきっかけに家族や地域の方々が自然と集まります。そこに消防士や消防団、防災関係者がいることで、普段はなかなか聞けない防災について、気軽に話せる環境をつくることができます。

「家具は固定していますか」「停電したら



消防車型キッチンカー

どうしますか」「水や簡易トイレは準備していますか」。こうした何気ない会話から、備えを見直すきっかけが生まれます。

これまで、地域のお祭り、マルシェ、子ども食堂、商業施設、大学祭など、62回のイベントに出展し、延べ22万人を超える方々との接点をつくってきました。

私たちが大切にしているのは、「防災イベントに人を集める」ことだけでなく、すでに人が集まっている場所へ、防災側から入っていくことです。もともとは防災を目的としていなかった方々とも自然に出会うことができます。

防災を目的地にするのではなく、日常のさまざまな場所に防災との接点をつくる。



消防車型キッチンカー（防災グッズ展示の様子）

そのための「移動式防災拠点」として、消防車型キッチンカーを活用しています。

3 出会いから、あらゆる連携へ

活動が続ける中で、一つの出会いがさまざまな連携へと発展するようになりました。

イベントで実際に顔を合わせ、防災について話すことで、「社員にも話してほしい」「会社の防災対策を見直したい」「地域と一緒にイベントを開催したい」といった相談に繋がる場合があります。

そこから、企業向けの防災講話や研修、備蓄や社内防災対策の見直し、行政・消防・企業・地域団体が連携したイベントなど、新たな取り組みが生まれています。これまで「防災について相談したかったけれど、誰に相談すればよいか分からなかった」という方とも、イベントという身近な



地域企業とのコラボイベントの様子

場所だからこそ出会うことができます。

防災について話す機会をつくり、気づきを生み、その出会いを家庭、企業、地域での具体的な行動へつなげていく。私たちは、「出会いを、あらゆる連携へ」つなげることも、大切な役割だと考えています。

4 未来への展望。47都道府県へ、防災の接点を広げる

私たちの目標の一つは、この活動を47都道府県へ広げることです。全国それぞれの地域にいる消防士、消防団、防災関係者、行政、企業、地域団体などつながり、その地域だからこそできる取り組みを一緒につくりながら、防災と出会える場所を増やしていきたいと思っています。特に”直接”お話を聞いてくださると、防災の重要性に気づき、具体的なアクションに繋がることがとても多いです。だからこそ、防災を熱く伝えられる仲間を増やしなが、進んでいきたいと考えています。消防車型キッチンカーという接点から人と人が出会い、対話が生まれ、行動につながり、地域との新しい連携へと広がっていく。こうした関係が生まれる仕組みを、全国の地域の皆様と一緒につくっていききたいと考えています。



イベントでの雰囲気



防災講話の様子（自主開催の様子）